

漆の木を使った草木染体験会を開催

地域特産の丹波漆や緑化センターの取組への理解を深めるため、緑化センターにおいて、11月16日(土)に「漆を使った草木染め体験会」を開催したところ、府内各地からの親子連れなど22名の参加がありました。

この取組は、「NPO 法人丹波漆」協力のもと、石川県能登を拠点に活動されている草木染めの染色家・新谷夫妻を講師に招いて、平成30年から毎年実施しています。

参加者は、文化財修復等で不可欠な国産漆の確保には、丹波漆の復興が重要であることなどの説明を受けながら、漆を掻き終えた木から煮出した染液を使い、バンダナを思い思いの柄に染色しました。

当センターでは、今後も日本の伝統文化を支える丹波漆の生産振興につながる取組を実施していきます。



新谷夫妻の説明



漆染めの作業風景



参加者の作品

農林センター(森林技術センター)

小学生に丹後農業研究所の仕事を紹介

11月13日および14日、当所研究員が京丹後市の小学5年生のべ58名に社会科の授業の一環として、丹後地域の水稲作における当所の役割を紹介しました。

授業では当所の水稲に関わる業務内容と、当所が開発に関わった府オリジナル米「京式部」を紹介しました。児童らはこの一年、学校で水稲に関わる知識を深めてきており、「丹後米の一番の課題は何か」「高温に強い京式部がもっと広がってほしい」等の活発な質問や意見があがりました。

今後も当所では、子どもたちに地域の農業に関心を持ってもらえるよう教育活動への協力を行っていきます。



講義会場の様子(京丹後市立網野南小学校)

きょうとまるごとお茶の博覧会プレイベントを実施

来年関西万博が開催されるのを契機に、京都府内に観光客を呼び込むための施策が展開されており、茶関係では「きょうとまるごとお茶の博覧会」が開催されます。11月10日に北野天満宮で開催されたプレイベントにおいて、当所は「あなたの好みと出会える宇治茶試飲会」を実施し、約220名の来場者がありました。

試飲会では来場者に産地や品種など異なる特徴を持つ6種類の煎茶から3種を試飲してもらい、自分の好みのお茶とその理由などについてアンケートを実施しました。

来場者からは、「お茶の味がそれぞれ全然違う！」「お茶が美味しかった」「もっといろいろなお茶を飲んでみたいくなった」等の声が聞かれました。



試飲会会場



煎茶3種を試飲



抽選会を実施



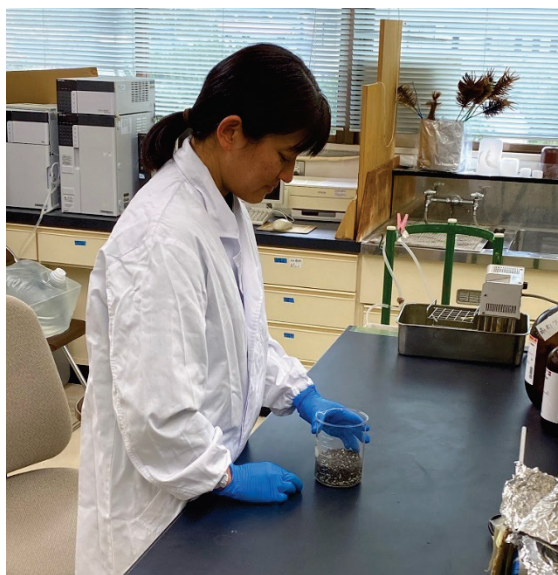
京都市茶業組合の販売ブース

畜産堆肥ペレット肥料の散布方法に関する試験を実施

今年度、当センターでは畜産課、農産課及び農業改良普及センターとチーム(タスクチーム)を組み、府内産畜産堆肥を原料としたペレット肥料の利用拡大に向けた活動を行っています。

成分を補強するため堆肥に化成肥料を添加してからペレット化する方法や、堆肥のみをペレット化したものに粒状の化成肥料を配合する方法をチームで検討しています。後者の場合2種類の肥料を均等な割合で散布できるかどうか重要なため、当所で室内での振とう試験を実施しました(写真)。

今後は耕種農家の協力の下、ほ場でブロードキャスターを用いた散布試験を実施し、肥料が均等に散布できるかどうかを確認する予定です。



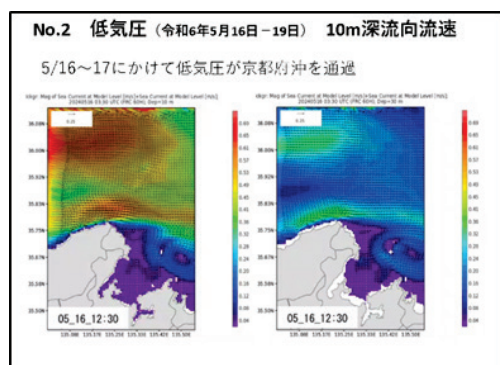
室内試験の様子

令和6年度 若狭湾研究集会

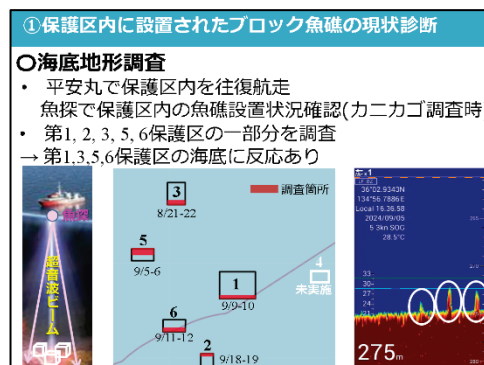
12月4～5日に令和6年若狭湾研究集会が九州大学応用力学研究所にて開催されます。当研究集会は、大学(九州大学・琉球大学・福井県立大学)、気象研究所、県水産試験場(福井県・京都府)が参加し、海洋環境、急潮※予測及び漁場に関する情報を持ち寄って、急潮発生時の特徴的なパターンの解析や、ズワイガニ漁場や資源の状況について情報交換することを目的としています。

当センターからは、「令和6年度の急潮発生状況」や「ズワイガニ保護区の調査結果」について話題提供を行う予定です。研究集会で得られた意見や近隣県の情報を今後の解析や調査計画に反映し、急潮被害削減やズワイガニの新たな資源管理に向けて引き続き取り組んでいきます。

※ 急潮:定置網に被害をもたらす恐れのある1ノット(約50cm/秒)を超えるような速い流れ。



急潮説明スライド(一部抜粋)



ズワイガニ説明スライド(一部抜粋)